

1. 都市交通空間 = コミュニケーションを育む場として捉える



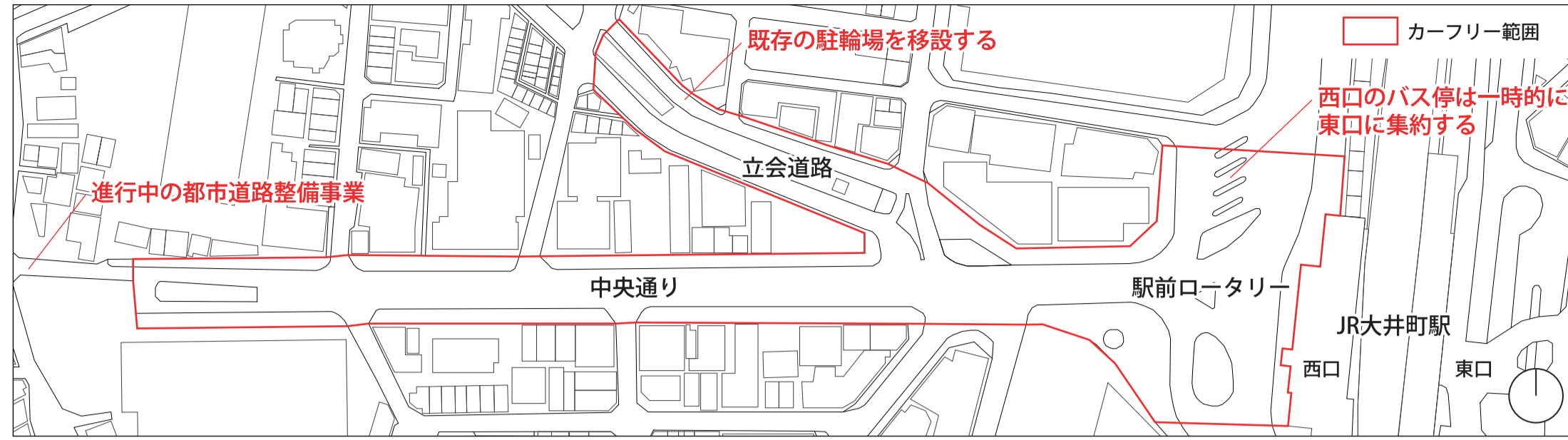
大井町駅周辺の都市交通の現状

大井町駅周辺基盤整備が時間をかけて進む中、中央通りの自動車や歩行者の利用度の低さや、交通量の多さから起こる立会道路の歩行者との交錯、緑道の高低差による利用度の低さが一層顕著になっている。また駅周辺の開発が進む一方で、自動車交通の負担の増大が懸念される。



自動車交通の考え方を整理する

1997年にフランスのラ・ロシェルで始まった「カーフリーデー」や「モビリティウォーク」など、都市の中心部で自動車を使用しないことで、交通や環境、都市生活と車の使い方について考える社会実験を通して、大井町駅周辺の自動車交通に対する考え方を整理する必要がある。



パブリックスペースとしての都市交通空間

日本の都心部では膨大な投資を糧に一点集中型の開発を繰り返すことで都市の再生を図ってきたが、オープン時の話題性につられて訪れたきりという人は少なくない。一方、都市交通空間では移動と安全が条件のもと車と人の共存が永遠のテーマとなり、人々が活動出来る場として、子供や老人にも安心安全な場を確保できたり、災害時にも市民が集える場としての活用が期待できる。

オオイパブリックライフの提案

-都市交通空間の活用からまちの未来を考える-

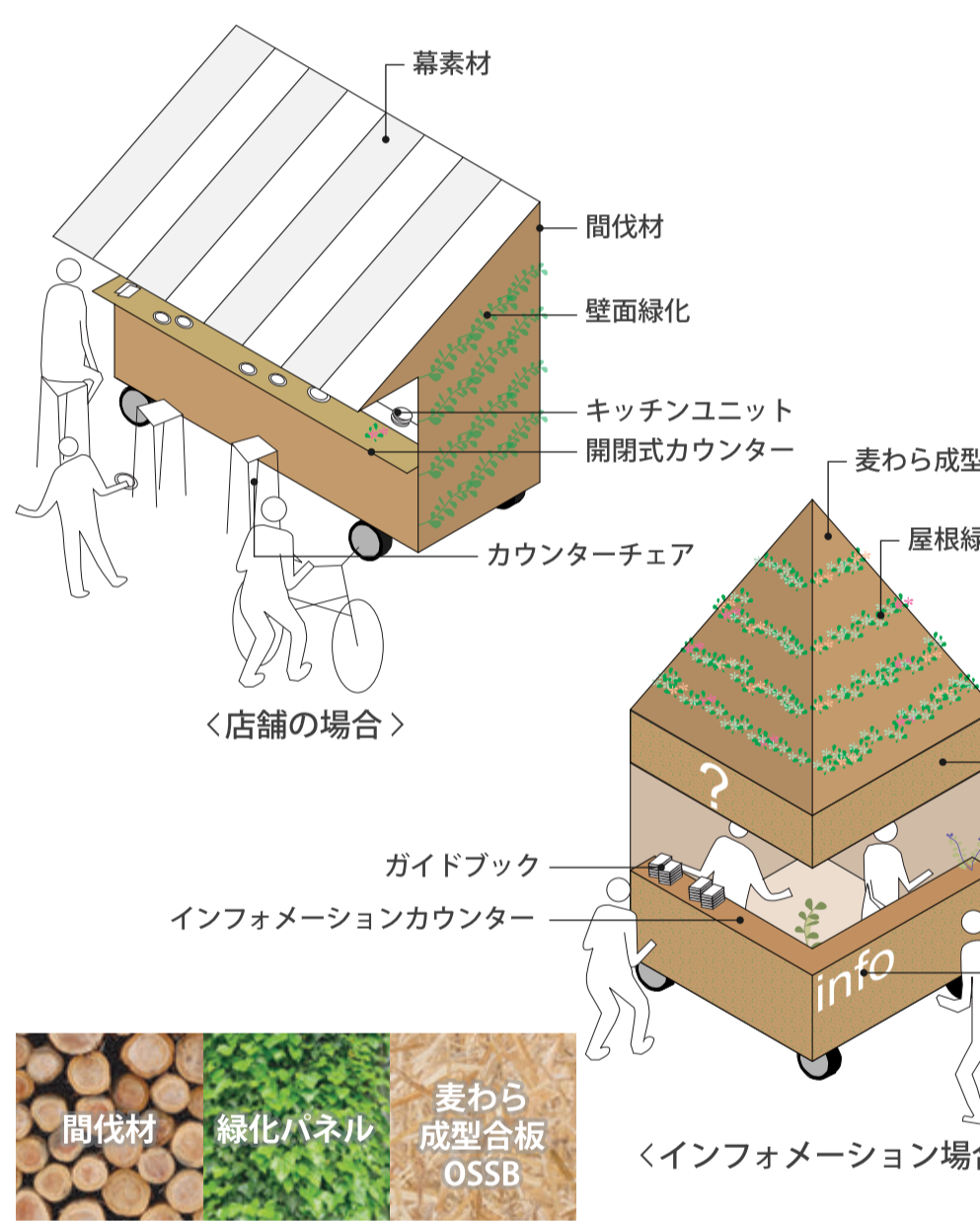
現状の大井町駅周辺地区においてパブリックスペースが少ない点が賑わいを生まれにくい要因と考えます。良質な公共空間とそこでの都市コミュニケーションの在り方を問うことは、他者との関わりを持ちながら過ごす社会的な生活(以下、パブリックライフ)の充実につながります。

本提案は、都市交通空間をコミュニケーションを育む場として捉え直し、都市と人々との関わりを誘発するモバイルアーキテクチャーを通じたパブリックライフを提案します。

2. まちの人が運営するモバイルアーキテクチャーの提案

賑わいの器 = モバイルアーキテクチャー

人々が活動するためには器が必要である。時には一点集中でき時には多点分散できる、都市交通空間ならではの流動的な手法が求められる。そこで、移動可能な建築(以下、モバイルアーキテクチャー)を提案する。モバイルアーキテクチャーは集すれば大きな建築になり、分散すればまち中のコミュニケーションツールとして機能する。都市交通空間の中で、モバイルアーキテクチャーを使い、店舗を出したりインフォメーションをしたり賑わいの器として活用される。



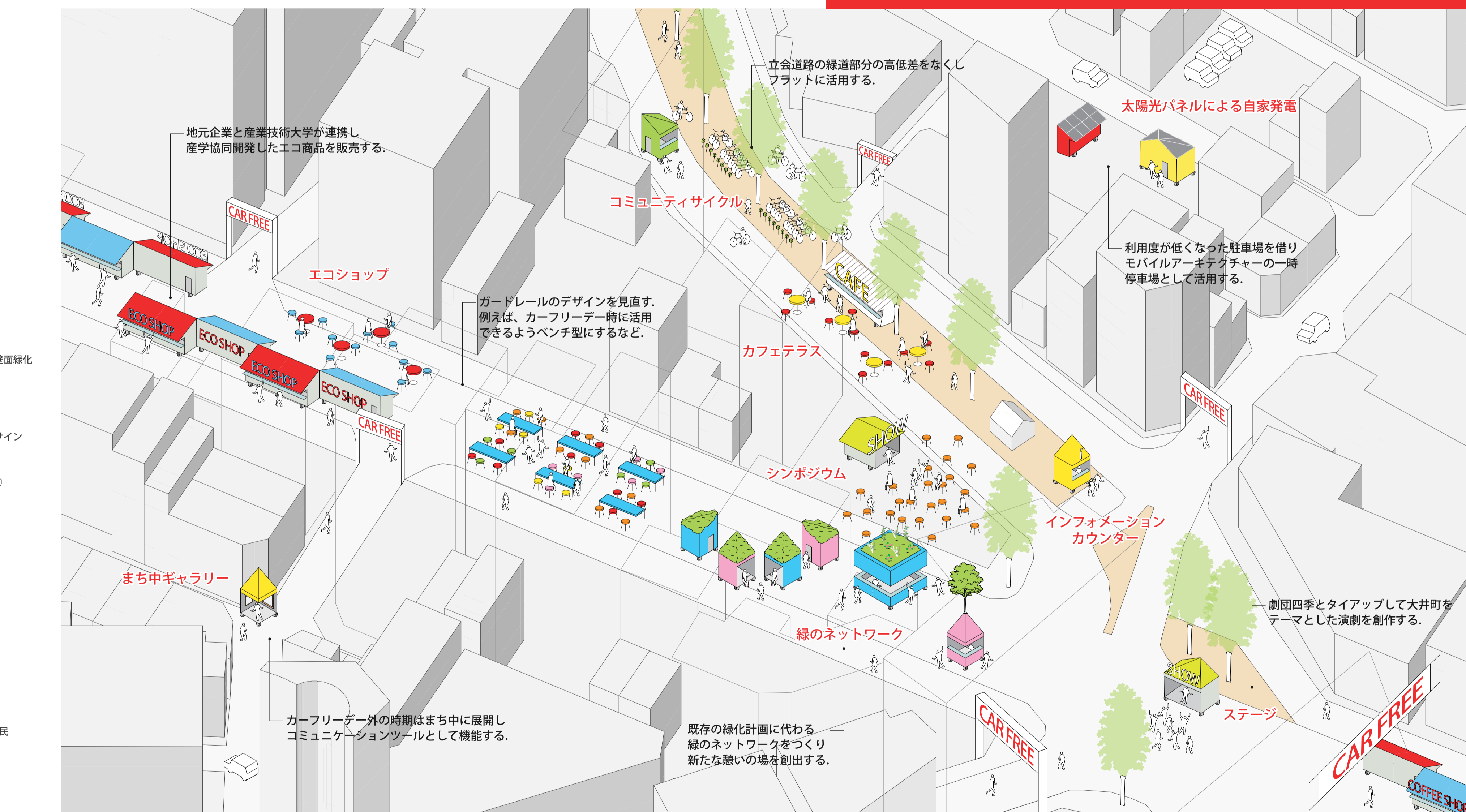
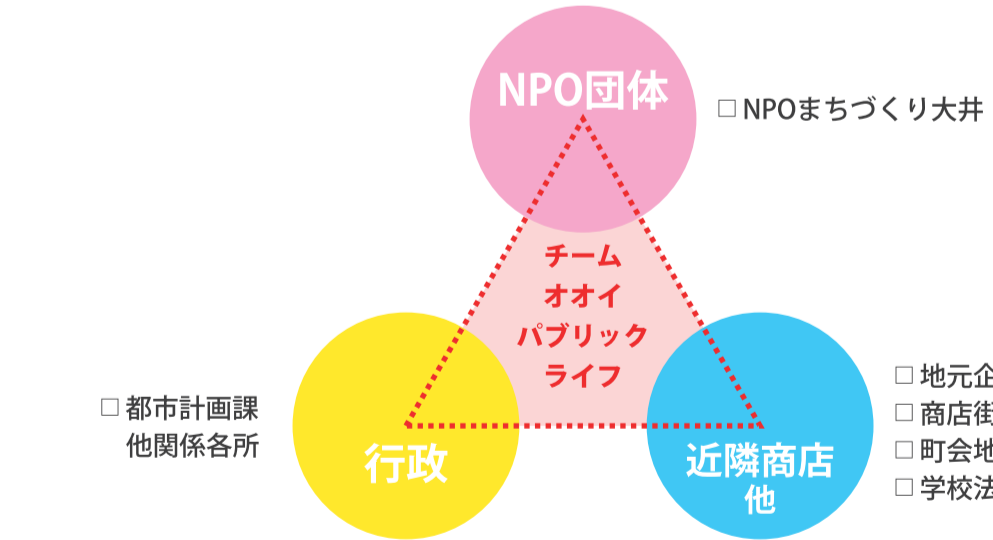
エコマテリアルの活用による環境貢献

モバイルアーキテクチャーは間伐材や緑化パネル、麦わら成型合板(OSSB)などエコマテリアルを積極的に活用する。モバイルアーキテクチャーがまち中に展開することで、緑やオープンスペースの創出、景観の向上に寄与する他、大井町の新たな環境貢献につながる。



みんなで所有し管理する 独自のルールづくり

大井町に古くから残る近隣商店や、まちづくり大井をはじめとするNPO団体、また行政団体を含む様々な団体により「チーム オオイパブリックライフ」をつくり、モバイルアーキテクチャーをみんなで所有し管理する。また道路整備事業やまちづくり事業などの公共事業予算から「オオイパブリックファンド」へ予算を定期的に割り当てるなど、独自のルールを設け運営する。



3. オオイパブリックライフの流れ

オオイパブリックライフを実現するための時間軸と流れを示す。写真は事例として挙げている。(赤枠=応募者が実践したプロジェクト)

□ 座談会・シンポジウムの開催	□ 体験型イベントの開催	□ 社会実験 (カーフリーデー・モビリティウォーク・コミュニティサイクル) の実施	□ 既存行事との協同	□ チーム・ファンドの立ち上げ	□ エコマテリアルを使ったモバイルアーキテクチャーの設計・施工	□ モバイルアーキテクチャーの活用
-----------------	--------------	---	------------	-----------------	---------------------------------	-------------------

くした蔵プロジェクト

SWEETS KURA SHIMODA

カーフリーデー

モビリティウォーク

コミュニティサイクル

大井どんたく

住宅展示場を公園化する

OSSB 展示ブース

OSSB panel structure

ランプラス通りの舞台群

1年目：パブリックライフとは何かを知る

2年目：パブリックスペースを探す

3年目以降：モバイルアーキテクチャーを制作し活用する

～人があつまる大井町駅前中央通りアイデアコンペ～

提案要旨説明書

■作品タイトル

オオイパブリックライフの提案
-都市交通空間の活用からまちの未来を考える-

■提案要旨

これまで日本の都市は膨大な投資を糧に一点集中型の開発を繰り返すことで再生を図って
たが、オープン時の話題性につられて訪れたきりという人は少なくない。一方、都市交通空間
では移動と安全が絶対条件のもと車と人の共存が永遠のテーマとなり、都市交通空間が人々
の活動の場としての開発対象には挙げにくい状況にある。その中、1997年にフランスのラ・ロ
シャルで始まった「カーフリーデー」や「モビリティウィーク」など、都市の中心部で自動車
を使用しないことで、交通や環境、都市生活と車の使い方の問題について考える社会実験が世
界各国で行われており、日本でも取り入れる都市が増えている。

大井町駅西口周辺には中央通りや立会道路、駅前ロータリーなど様々な都市交通空間が存
在するが、自動車交通への負担が大きく、人々が活動できるパブリックスペースは少ない。都市
交通に関する社会実験により、今一度自動車交通の考え方を整理する必要があると考える。さ
らに、都市交通空間を人々のコミュニケーションを育む場として捉え直し、都市と人々との関わり
を誘発する移動可能な建築「モバイルアーキテクチャー」を通じた「パブリックライフ」を示し
ていくことが、大井町のまちの未来を予想させるはずである。

大井町の近隣商店やまちづくり大井をはじめとするNPO団体、各種行政団体が、独自のチー
ムとルールをつくり運営する「モバイルアーキテクチャー」。これがきっかけとなり、大井町駅西
口周辺の都市交通空間が人々の活動の場となっていくことで賑わいを生む。同時に、子供や老
人に安心・安全な場の確保や、災害時に市民が集える場としての活用にもつながる。良質な公
共空間とそこでの都市コミュニケーションの在り方を問うことは、他者との関わりを持ちながら
過ごす社会的な生活「パブリックライフ」の充実につながる。我々はここに「オオイパブリック
ライフ」を提案する。

※なぜこのような提案としたのかという理由や、特に工夫した点、アピールしたい点などを自由に記載してください。